

## 教員の総合業績(基礎資料)調査 氏名 ( 美馬のゆり )

### 1 研究業績

1) 著書・論文・学会発表・作品など (平成 12-18 年度に限る)

例: (欧文の場合は、原文 **alphabet** で記入してください)

# 全著者あるいは作者名 (自己にアンダーライン、単著の場合はアンダーライン不要)

& 著書、学術論文又は作品の名称

\$ 発行所 (総頁数)、発表雑誌又は発表学会 (号・巻・pp・年月)、展覧会 (場所・期間) などの名称

さらに、特別講演・シンポジウム (招待講演)・一般講演など (地方支部会・全国大会・国際会議) の別

註: 学会・展覧会など、専門分野以外の人に分りにくい場合は、できるだけその社会的位置づけ、歴史、規模などの簡潔な説明を付してください

(平成 18 年 10 月より赴任のため、それ以降の業績のみ記載)

< 論文 >

# 共著者: 椎尾一郎、浜田玲子、美馬のゆり

& Kitchen of the Future: コンピュータ強化キッチンとその応用、平成 18 年 10 月

\$ コンピュータソフトウェア (日本ソフトウェア科学会) Vol. 23, No. 4, p.36-p.46,  
ISSN0289-6540

\$ 岩波書店

< 著書 >

# 共著者: 有元章、北垣郁雄、美馬のゆり他

# 編者: 有元章、北垣郁雄

& 大学力、平成 18 年 10 月刊行

& 本人担当部分: 第 2 部 第 5 章 13. 全学生および全教員必修のプロジェクト学習を実施する  
(p.90-p.93)

\$ ミネルヴァ書房

# 共著者: Michel Claessens, Noyuri Mima他

# 編者: Michel Claessens

& Communicating European Research 2005、平成 19 年 1 月

& 本人担当部分: Chapter 21: The Challenge of Showing and Discussing the Unknown  
(p.121-p.127)

\$ Springer

<雑誌記事>

#美馬のゆり

&科学コミュニケーション” 欧米の現状と日本のこれから” 平成 18 年 10 月

\$ 『JISTEC REPORT』 vol.61, p.3-p.7

\$ (社) 科学技術国際交流センター

#美馬のゆり

&秋晴れのもと、体を鍛える頭を鍛える 平成 18 年 10 月

\$ 『数学セミナー』 第 45 卷 11 号, p.86-p.87

\$ 日本評論社

#美馬のゆり

&人類の生き残り、サバイバル! 平成 18 年 11 月

\$ 『数学セミナー』 第 45 卷 12 号, p.86-p.87

\$ 日本評論社

#美馬のゆり

&楽しく学ぼう、仕事と科学 平成 18 年 12 月

\$ 『数学セミナー』 第 46 卷 1 号, p.84-p.85

\$ 日本評論社

#美馬のゆり

&コンピュータと教育 平成 19 年 1 月

\$ 『数学セミナー』 第 46 卷 2 号, p.90-p.91

\$ 日本評論社

#美馬のゆり

&空間の持つ力 平成 19 年 2 月

\$ 『数学セミナー』 第 46 卷 3 号, p.92-p.93

\$ 日本評論社

#美馬のゆり (インタビュー形式)

&理系の博士号取得者ももっと教育現場に 平成 19 年 2 月 3 日

\$ 教育家庭新聞 学校 IT と確かな学力, p.1

\$ 教育家庭新聞社

#阿部博之・美馬のゆり（対談形式）

&合い言葉は「True Nano」 平成 19 年 4 月

&劇的進化！変わる未来はすぐそこに True Nano , p.38-p.39

\$内閣府・文部科学省科学技術政策研究所

2) 学会活動（役員・会員）、学会の組織運営、学会誌の編集委員など（平成 12-18 年度に限る）

例：

#学会などの名称

&編集委員長又は委員などの別

\$ 任務期間（年月）

註：専門分野によっては適宜変更（例えば、学会を展覧会などと記す）・追加説明を付してください できれば展覧会・学会などについても社会的位置付け、歴史、規模などの簡潔な説明を添えてください

**（平成 18 年 10 月より赴任のため、それ以降の任期中のもののみ記載）**

平成 11 年 7 月 (財)数理科学振興会理事(現在に至る)

平成 12 年 7 月 科学技術振興事業団「日米科学技術理解増進専門家会議」委員(現在に至る)

平成 13 年 6 月 日本教育工学会理事(現在に至る)

平成 15 年 11 月 文部科学省「科学技術・学術審議会」臨時委員(人材委員会) (平成 21 年 1 月まで)

平成 16 年 6 月 文部科学省「文部科学大臣表彰審査委員会」委員(平成 19 年 8 月まで)

平成 16 年 7 月 文部科学省「科学技術・学術審議会」専門委員（学術分科会）(平成 19 年 1 月まで)

平成 16 年 10 月 九州大学ユーザーサイエンス機構「外部評価委員会」委員（平成 20 年 3 月まで)

平成 18 年 4 月 財団法人 東京大学総合研究会 理事及び評議員（平成 20 年 3 月まで)

平成 18 年 4 月 財団法人 日産科学振興財団 理事（平成 20 年 3 月まで)

平成 18 年 4 月 日本学術会議連携会員（平成 20 年 9 月まで)

平成 18 年 8 月 福島県「環境施策推進拠点機能検討委員会」委員（平成 20 年 3 月まで)

平成 18 年 10 月 文部科学省科学技術政策研究所「ナノテク広報コンテンツ編集委員会」委員(平成 19 年 3 月まで)

平成 18 年 10 月 独立行政法人 科学技術振興機構「日本科学未来館事業検討委員会」委員（平成 19 年 3 月まで)

平成 18 年 10 月 独立行政法人 科学技術振興機構「科学技術コミュニケーション業務に関する検討会」アドバイザー（平成 19 年 3 月まで)

平成 18 年 10 月 独立行政法人 科学技術振興機構「サイエンスアゴラ 2006 プログラム委員会」委員（平成 19 年 3 月まで）  
平成 19 年 1 月 (独)日本学術振興会「科学研究費委員会」専門委員(平成 19 年 12 月まで)  
平成 18 年 12 月 日本学術会議「科学と社会委員会学力増進分科会科学技術リテラシー小委員会」委員（平成 20 年 3 月まで）  
平成 18 年 12 月 国立教育政策研究所科学振興調整費「重点政策課題への動機的対応の推進」日本人が身に付けるべき科学技術の基礎的素養に関する調査研究 21 世紀の科学技術リテラシー像—豊かに生きるための智—プロジェクトに係る企画推進委員（平成 20 年 3 月まで）  
平成 19 年 2 月 経済産業省消費経済審議会製品安全部会「製品事故判定第三者委員会」委員（平成 21 年 1 月まで）

3) 研究費獲得状況（未来大学外からの財源）（科学研究費、財団助成金、委任経理金など（平成 12-18 年度に限る）

例：

#平成 12-(13)年度

&財源、たとえば科学研究費補助金

\$ 研究課題名

%代表者、分担者の別、研究課題参加者数、あるいは〇〇研究所との共同研究（相手機関の協同研究者数など）

¥研究経費（例：平成 12 年度; 800 千円、平成 13 年度; 500 千円）

**（平成 18 年 10 月より赴任のため、それ以降の業績のみ記載）**

#平成 17 年度～平成 19 年度

&科学研究費補助金（基盤研究(B)(2)）、課題番号：17300272

\$コンピュータ支援キッチンの開発とその教育的利用に関する研究

%研究代表者：椎尾一郎（お茶の水女子大学・理学部・教授）

%研究分担者：塩澤秀和（玉川大学・工学部・講師）

%研究分担者：美馬のゆり（公立はこだて未来大学・システム情報科学部・教授）

%研究分担者：浜田玲子（東京大学・情報理工学系研究科・特任助手）

¥研究経費（平成 17 年度; 4,600 千円、平成 18 年度; 3,400 千円、平成 19 年度; 2,800 千円、総計; 10,800 千円）

4) その他（特許、内地研究（学内共同研究は除外）および在外研究歴と成果など特記すべきこと。本項目は平成 12-17 年度に限定しない。）

平成 10 年 8 月 アメリカ合衆国スタンフォード国際研究所教育工学センター・インターナショナル・フェロー(Stanford Research Institute International, Center for Technology in Learning, International Fellow)(平成 10 年 12 月まで)

平成 13 年 8 月 文部科学省長期在外研究員  
アメリカ合衆国マサチューセッツ工科大学メディア・ラボラトリー客員研究員 (Massachusetts Institute of Technology, Media Laboratory Visiting Scholar) (平成 14 年 3 月まで)

## 2 教育業績

1) 教育負担の実態 (複数教員で担当する科目の場合は、貴方の分担分のみ) 本項目は時間割に含まれた教科 (補講・補習など教室で行なったものは含む) を調査の対象としております。従って、〇〇研究会、〇〇同好会など、各教員室他で行なったものは、対象外とします。試験やレポートなどの採点時間も除外します。(平成 12-18 年度に限る)

例:

# 科目名 (講義・演習・実習・補講の別)、単位数・必修/選択の別、担当教員数 (単独の場合は不要)

& 実施期間 (平成 12 年度前期、あるいは平成 13 年 10-11 月)、実施コマ数 (休講しても補講で補えば算定する)、補講をしなかった休講回数 (例: 実施 13 コマ、休講 2 コマ)

\$ 実働時間数 (全て、実時間合計(推定)値でお願いします)、演習などは一コマ 1.5 時間を超えていると思われるので、そのような場合は、たとえば一コマ 2.2 時間などと算定してください (例: 実働 22.5 時間)

% 受講登録学生数 (例: 45 名)、平均的出席者数 (例: 38 名; 初めは 40 名、終りは 25 名など)、単位認定 (合格) 者数

註: 本項目はできるだけ正確にお願いしたいですが、概数でも結構です 記述がない場合は 0 と判断します

### (平成 18 年 10 月より赴任のため、それ以降の業績のみ記載)

# 認知心理学 (講義) 2 単位 専門必修科目 担当教員 5 名

& 平成 18 年度後期 14×2 コマ(担当 5×2 コマ程度)

% 登録 172 名、出席 168 名、合格 163 名

# 認知心理学演習 (演習) 2 単位 専門必修科目 担当教員 5 名

& 平成 18 年度後期 14×2 コマ(担当 4×2 コマ程度)

% 登録 170 名、出席 170 名、合格 163 名

# 大学院・認知情報科学特論

& 平成 18 年度後期 2 単位 実施 15 コマ

% 登録 8 名、出席 8 名、合格 8 名

2) 成績評価方法（その方法を具体的に記載・学生（社会）が納得するような具体的説明。）  
また、複数の教員で担当する科目の場合は、取りまとめの方法についても記述してください。

認知心理学

講義の成績評価：出席が 2/3 より少ないものは失格。期末試験の結果。

演習の成績評価：出席が 2/3 より少ないものは失格。レポートの平均。

大学院・認知情報科学特論 授業中の発表、討論への参加、読書ノートの作成

3) 講義方法など改善への努力（FD 関連の講演会などの聴講回数、教育内容とそれらの効果について貴方が行われた事柄・目標を具体的に記述して下さい）。

認知心理学、認知心理学演習

講義では心理統計学を含めた方法論を中心に、演習では基礎的知識、技能の習得を中心に行い、実際に基礎的な心理学実験を実施できるようになるよう心がけた。また、演習ではレポートを提出し、添削することにより基本的な科学的報告書の書き方を学んでもらった。

4) その他（上記以外に特記すべきことがありましたら、簡潔かつ具体的に、箇条書きなどで記述してください。特に、貴方が作られたシラバスと現在教務委員会で検討されている（コース別）講義内容・目標、あるいは JABEE などとの関連、並びに貴方が担当されている科目の位置付けなどについてご意見があれば記して下さい。また、本学は教員の専門分野が多岐にわたっているため、相互理解を目的としたコース特有の問題点や、皆さんの教育に対する抱負などを記述して戴いても結構です。）

### 3 大学の管理運営

各種委員会（委員長・委員、クラス担任、学習指導・生活指導、クラブ活動の顧問等の実績（具体的に記述してください、できれば実働延べ時間数など）、その他。（平成 12-18 年度に限る）

(平成 18 年 10 月より赴任のため、それ以降の業績のみ記載)

広報委員会

特色 GP 実施 WG

#### 4 その他

資格（技術士など）、地域への貢献（地域自治体審議会、委員会等の役員、委員。地域との共同研究・技術相談。公開講座・出前授業・市民向け講演）あるいは提言・御意見など。（平成 12-18 年度に限る）

地方自治体からの依頼で、市民、教職員、学生などに向けた教育方法、科学技術教育関連の講演を多数実施。

NHK の一般向け科学教養番組に年に数回出演。

教育関連・一般の新聞、政府広報誌・企業広報誌のインタビュー、対談、執筆など多数実施。